健(検)診から健康経営まで、健康づくりに本会が協力したお客様を紹介するシリーズです

「チームよぼう」が応援します！

第5回 旭化成株式会社 様

グローバルな事業を展開している総合化学メーカーの旭化成株式会社様。
定期健康診断やがん検診、人間ドック、麻しん・風しんの抗体検査などで本会をご利用いただいています。

旭化成株式会社環境安全部東京健康管理室事務長の尾越善朗さん（後列右から2番目）、保健師の千田有美子さん（前列右から2番目）とスタッフの皆さん

「健康」は経営の最重要課題の一つ。グループ全体で取り組む

1922年に創業した旭化成グループは、「世界の人びとの〝いのち〟と〝くらし〟に貢献する」の理念の下、「マテリアル」「住宅」「ヘルスケア」の3領域を中心に事業を展開。グループ全体の従業員数は約4万人。このうち東日本エリアを管轄している東京健康管理室では保健師4人、産業医3人の体制で約3600人の社員をみている。

「旭化成がニューイヤー駅伝で4連覇！」のニュースに沸いた1月、統括産業医の小山一郎先生、東京健康管理室事務長の尾越善朗さんと保健師の千田有美子さんに話をうかがった。

――御社は健康管理活動をどのような体制で進めておられるのでしょう。

小山：旭化成グループでは、レスポンシブル・ケア（RC）※という活動の中で健康管理活動を行っています。

当社のRCの方針は「環境保全、品質保証、保安防災、労働安全衛生および健康を、経営の最重要課題と認識し、開発から廃棄に至る製品ライフサイクルすべてにわたり、あらゆる事業活動においてこれらに配慮する」です。「健康」をRCの柱の一つに立てている企業は実は少なくて、当社独自の活動とも言われています。

グループのRC方針の下、毎年定める目標に従って事業会社、事業本部、支社・製造所それぞれの目標を策定し、さらに工場ごとの目標を立て、活動をRC監査で評価することで、それぞれのレベルでPDCAを回し、継続的な改善を図っています。健康管理においても同様に活動を評価し、活動のレベルアップを図っています。

定期健診後のフォローアップ 保健相談等を実施

――健康診断や、その後の事後指導についてはいかがでしょう。

小山：健診の第一の目的は、本人の健康状態を評価し、健康を維持しながら継続的に業務を行えるよう、会社と従業員それぞれが実施すべき具体的な対応につなげることです。従ってその結果を本人だけでなく職場の管理職も活用できるようにすることが重要です。

グループでは全従業員に対して、グループ基準にのっとって「健康管理区分」を判定し、本人と職場の責任者に伝えることで、個々の従業員に対して健康上の配慮を実施していただいています。東京本社地区では、この健康管理区分を2014年から導入しました。これによって従業員の健康診断の捉え方が大きく変わったように思います。

例えばこの報告の導入前後を比べると、糖尿病のコントロール不良者が半数ほどに減りました。「働くためには〝健康である〟ことが前提である」と認識していただくことで、ご本人の生活習慣や行動を変えるきっかけとなった印象を持っています。

千田：それは私たち保健師も肌で感じています。もともとまじめで前向きな社員が多いこともあり、「フォローを受けるまでが健診」ということが伝わって、社員の意識が変わり、健診や精密検査の受診率、保健指導の受講率の高さにつながっていると思います。

遠隔地の従業員と面談する統括産業医の小山一郎先生。旭化成では地域による格差をなくすため標準化を進めており、遠隔地の従業員とはウェブ会議システムを活用し面談を行う

健康づくりをさらに充実させるために

――何か特徴的な取り組みなどはございますか。

尾越：当社ならではの取り組みとして救命救急のエキスパート研修を行っています。裾野を広げることも大事ですが、それと同時に研修を積んで指導的な立場で対処できる人も育成しています。RCの責任者から推薦された人たちに2011年から毎年、維持講習を受けてもらっていて、今年は約120人が受講しました。

千田：実際に社内で倒れた方にAEDを装着し、救命できた事例もあります。

――今後はどのような取り組みをお考えでしょう。本会への注文などもございましたら。

尾越：協会の担当者がきめ細かく動いてくださっていて事務の負担はかなり減ってきている印象です。今後もサポートしていただけると助かります。

千田：従来の取り組みの継続は大前提ですが、社員の意識をさらに高めていけるような取り組みができればと思っています。遠隔地の社員も参加できるようなスマホのアプリを使った運動のイベントなども検討中です。

小山：行動変容を起こすためには健診後の1回の面接だけでは難しく、継続的なフォローが必要であることはわかっています。ただ、そのためには保健指導の仕組みや考え方、スタイルを変えていかなければなりません。

また、健康経営に関しても動き始めています。今までは環境安全部が中心となってRCを進めてきましたが、今後は人事部門をはじめさまざまな関係者と今以上に連携し、従業員の健康保持増進とともに会社の生産性向上にも貢献する活動に発展させ、今年から本格的に展開していく予定です。

健康経営ではデータの管理と活用が非常に重要になってきます。当社は複数の医療機関で行った健診データを一元管理していますが、協会にはそのシステムに合わせてデータを納品していただいているので、助かっています。引き続きよろしくお願いします。

定期健康診断・がん検診 本会施設内での健診 編

▼実施した内容

定期健康診断、がん検診、麻しん・風しん抗体検査（希望者のみ）

☆事前準備（9～12月）
- 打ち合わせ（日程調整、健診項目の見直し等）
- 資材の準備

☆定期健診等を実施（1～3月）
本会の施設で定期健康診断・がん検診を実施
2020年は希望者に麻しん・風しん抗体検査を実施

☆アフターフォロー
- 健診結果を納品
- 健診データを一元管理用の形式に加工して送付

番外編1
社員向けのがんセミナー「大腸がんと健診事後フォローの重要性」の様子

番外編2
BSL（一次救命処置）エキスパート講習会

※ 化学物質を扱う企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会とのコミュニケーションを図る活動。